

本日の主要新聞の朝刊は、北海道、東北3県の17か所の縄文遺跡が世界遺産へ正式に登録する方向で、ユネスコが勧告を出した記事で埋められていた。

筆者にとっては30年来の縄文文化への取り組みが漸く具体化されたとの思いだ。但し縄文文化は北海道、東北3県だけでなく、全日本が対象とされるべきとの思いだ。尊敬する日本の代表的考古学者の小林達雄先生も、全日本の縄文遺跡を対象とするべきとのスタンスであり今後の課題だ。因みに日本全国で約90,000か所の縄文遺跡が有り現在も毎年1,000か所以上の発掘がある。日本は縄文遺跡の宝庫なのだ。

現在世界は新型コロナウイルスの蔓延により、人類の根源的な生き方が問われている。世界の人間の動きを止め、接触の機会を減らして、ウイルスの動きを抑え込むべく世界中の政府が必死に取り組んでいる。感染を防止する手段はワクチンの接種で、先進国を中心にワクチン接種による防衛策が実施されつつある。

現代社会は科学技術の発展により、産業革命以降世界は急激に人口が増加し、航空機の発達により、世界はまさに一つに結ばれた。21世紀に入って情報通信革命によって、世界は瞬時に人と人も結ばれる時代に突入した。この様な時代の中での新型コロナの蔓延は、まさに人類全体の根源的な生き方を問うていると思う。

世界的な哲学者で文明論者のイスラエル人ユバル・ノア・ハラリ博士はこの様に高度に発達した文明の中で、人類は「本来狩猟、漁労時代に持っていた五感、や六感を失い、人間がこれらの本能的な能力や感性を取り戻す必要がある」と論じている。

世界には「故きを温ねて新しきを知る」という言葉がある。人類の歴史を振り返る視点として、人の動きを知ることは今後の世界を予見する上で重要だ。

世界の人口動態と、狩猟漁労採集生活時代の縄文時代の人口を考え、改めて人間の根源的な生き方を考えたい。

	世界人口	日本
1万年前	500万—1,000万	縄文時代 20,000人
紀元元年	2億人—3億人	縄文中期 26万 弥生時代 59万
1,600年代	5億人	江戸時代 1,750万人
1,800年代	10億人	明治時代 3,481万人
1,900年代	16億人	大正時代 5,960万人
1,950年代	25億人	昭和、1950年 8,320万人
2,000年	65億人	2,000年 1億2,697万人
2020年	77億人	2,010年 1億2,805万人

上記の人口比較表から言えることは、世界は産業革命以降、日本は明治維新以降、急速に人口が増えたことである。

産業革命以前 世界の人口は約200年で、7.7倍強の77億人になり、日本は明治時代3,481万人が約3.6倍の1億2,800万に急激に増加したことだ。

ホモサピエンス(現生人類)がアフリカで誕生し、約20万年前にアフリカ

を出て、ヨーロッパ大陸に渡ったり、ユーラシア大陸を東方をめがけて、最後に東端の日本列島に到達したのは、約3万8千年前であることが考古学の旧石器遺跡の発掘で判明している。発掘されたのは九州の熊本であるが、旧石器時代も北海道から沖縄まで広く遺跡が発掘されている。

約16万年かけて、ホモサピエンスはユーラシア大陸を大自然や野生動物からの様々な生命の危険に晒されながら、日本列島に辿り着いたのだ。

海沿いにカヌーを使いながら辿り着いた海洋民族集団も存在していたという説もある。(沖縄港川遺跡)

日本列島に到着した旧石器人は、その後約1万年(2万9千年—1万9千年)もの氷河期を生き抜いてきた。旧石器人は打製石器を使用した狩猟漁労民族で彼らは既に厳しい自然の中で生き抜く知恵を身に付けていたと推察出来る。この旧石器時代人が約16,500年前に火と土と水を使用して縄文土器を作成したのだ。人類の最古の土器群としての青森県大平山元遺跡である。草創期の土器からは炭素分析で魚介類の焦げが検出されているので、海水、淡水の魚を土器で煮炊きしていたと言われる。

縄文時代は土器の分類から、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6つの期間で約14,000年間続いた、世界の中でも稀有なる長期、連続性を持った文化と言える。

日本列島で旧石器時代のナウマン象、マンモス等の巨大動物を狩りしてきた狩猟民族のDNAを持つ人々が土器を発明し、狩猟を中心とした移動型から、竪穴式の定住型に進化したのが縄文人である。

縄文文化を創りあげた縄文人の特徴を述べてみたい。現代の日本の停 を打破する可能性を秘めているからである。

哲学者で歴史学者でもあった故梅原 猛氏は 縄文文化は日本文化の源流、基層であるが、この長期に形成された縄文魂は、日本が艱難に遭遇した時の復元力になってきたと指摘している。

多くの自然災害、疫病、戦争、経済危機を縄文時代の後弥生時代から約2,000年の間、日本人は艱難辛苦を潜り抜けて来た。これはまさに、縄文時代に形成された復元力であるが、この復元力とは何か考察したい。

1・未知の世界を切り開く挑戦力が挙げられる。

日本に約3万8千年前に到着したホモサピエンスは、ユーラシア大陸に到着するまでに、あらゆる自然との脅威、飢餓との戦い、動物から襲われる恐怖を克服してきた人々だ。彼らは楽園の日本列島で約10,000年の氷河期を潜り抜け、縄文土器を発掘したことで長期の縄文文化を形成した。縄文時代も気候の温暖差や自然の猛威と闘い最終的に自然と共存、共生し生き抜く力を身につけた。

この歴史的体験は、まさに未知の世界への挑戦心と挑戦力である。

2. 創造力と開拓力

縄文土器、土偶、狩猟採集道具、漁労の竿から仕掛け、竪穴式住居四季折々の食材の確保、貯蔵、編み物、衣食住全般が、創意工夫の連続である。

現代の世界的ファッション デザイナーの三宅 一生もパリコレクションで

縄文の服飾文化をセッションワンにて発表した様に創造性溢れている。

### 3. ダイナミック、パワー、エネルギー

創造的な分野に飽くことなく挑戦するダイナミズムは、そこに凄まじい

パワーと、エネルギーが無いと縄文土器も土偶も住居も、すべて

生み出すことが出来ない。それは強烈な生き抜く「生命力」だ。

冒頭に世界的な哲学者ユバル・ノア・ハラリ博士が、現代文明の利便性

快適性のお陰で、五感、六感が失われていることを警告しているが、まさに生き抜くための「生命力」なのかも知れない。

さて縄文人と対比されるのが農耕、鉄器、青銅器、古墳等を日本に技術導入し現代人に近い弥生人との相互比較は下記の通りである。

弥生型  
管理型  
年功型  
垂直型  
就社型  
固定型  
規律型  
効率志向  
適格性

縄文型  
動態型  
成果型  
水平型  
就職型  
変動型  
自由型  
効果志向  
適切性

日本社会は様々な問題を抱えているが、これらの解決にはリーダーが弥生型から縄文型に思考と行動を変える必要がある。

最後に世界を俯瞰した場合は縄文時代が、縄文道で一貫して提唱しているように、

1. 自然環境との共存、共生
2. 長期な平和社会
3. 女性の地位—DIVERSITY 実現社会
4. 富の平等性

が実現していた社会である。言わば日本は縄文時代にユートピア

を実現していたのだ。かかる意味で、今や世界は縄文文化を見直す

時期に来ていると言えよう。

冒頭に述べた様に、今年の7月15日から7月31日に、北海道、東北3県の17か所の縄文遺跡の正式登録される予定だ。

登録が正式に認められれば、世界が縄文文化を見直す大きな歴史的転機になるからだ。

又最後に縄文文化の意義と意味をアートと農業、林業、を通じて、今まで

16年に亘って展開している新潟県奥阿賀にコスモ夢舞台を展開している彫刻家の佐藤 賢太郎氏がいる、縄文ミュージアムや縄文ストーンサークルも創り、縄文の温泉もある。

又自然再生エネルギーの太陽光を使用した縄文ビレッジでもある。

現在3回目の奥阿賀アートフェスティバルを開催中だ。

世界からも多くの外国人が今まで訪れているが、今後縄文文化が世界に

広く知られるようになれば、世界から現代版縄文文化を堪能して頂くために来訪を期待したい。インターネットでコスモ夢舞台、奥阿賀アートフェスティバルを検索すると、

YOU TUBE でも見られる。

コスモ夢舞台は <http://www.cosmoyume.net/> で詳細は理解できる。

結論は「故きを温ね新しきを知る」上で、縄文文化は世界性、普遍性のある文化なので、世界の環境問題、平和問題、経済格差問題を解決する、世界を救うヒントがある。

衣食住等の日本文化は、すべて縄文時代から長期に亘って

環境と健康を考え抜いて徐々に完成させてきた日本人の誇るべき結晶である。日本が今後世界に発信するのは精神文化と武術文化であろう。筆者は日本がこれから注目するのは沢山あるが、動と静のコンビネーションとしての合気道と座禅である。

座禅は現在、「世界のための日本の心」の主催者である土居 征夫代表が、インターネットで座禅会を毎週木曜日の早朝に主催している。

筆者も過去半年参加しているが、毎回奥行きが深いことを実感する。

アップルの創業者スティーブ・ジョブズや多くのカトリックの司祭も

座禅を組んでいると言う。筆者は日本の陶祖加藤 藤四郎景正の末裔だが、1223年曹洞宗開祖 道元禅師と一緒に当時の南宋に訪問し修行を続けると同時に中国から最新の陶器の技術を学んだことから、座禅には関心を寄せてきた。静の精神文化として期待したい。

「世界のための日本の心」は <https://www.jpkokoro.com> を参照願いたい。動の武術では日本の柔道、剣道、空手道、の全ての武術を保身術として完成させたのが武田 惣角、植芝 盛平だが、現在アメリカ大陸で約20年アメリカ人、カナダ人を中心に合気道、空手を教授してきた真中流合気道師範 中村 義一先生の下で修業中だ。現在世界に合気道を習う人口が約140万人おり、半分が女性と聞く。今後合気道が保身術で相手の力と気を極めて自然体で柔軟に使う保身出来る術は、縄文の平和思想に結びつく、日本武術の完成形だと思う。ここの道場は <https://www.yugyoan.jp/> で稽古内容等理解できる。

以上のように世界最古の縄文文化を源流、基層とした衣食住文化、精神文化、武術文化は、今後世界に益々発信され、そこに流れる平和、環境、健康な思想が、世界を良くする、—世界を救う—方向で貢献できると思う。まさに縄文文化の精神に根差す縄文道は温故知新になると確信する。 完